

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜 1丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和4年11月14日	評価結果市町村受理日	令和5年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ静かな環境の中で、コロナ禍でも、快適で穏やかな時間が過ごせるよう模索し、レク活動をとおして入居者が笑顔で生活できるよう工夫しています。
入居者それぞれができる事をお互いに助け合いながら、個々のペースでその人らしさを大切に生活して頂いています。
医療面でも、主治医との連携が密に取れ、定期的な往診や体調面でも心配事も相談しやすい関係が築けています。そのため、看取り介護も医師や看護師とも24時間いつでも連携がとれ、最期まで寄り添える介護を実践できています。ものにまとめ、理念を「支え合う 優しさで笑顔あふれる 幸せな人生を」と改めた。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋建ての2ユニットの事業所は、三陸自動車大槌IC近くにある。近辺には、消防署・学校など公的施設やスーパーなどの商業施設がある利便性の高い所である。コロナ禍であるが、令和3年、4年共に2か月に1回の割合で運営推進委員会を集合開催している。委員は、家族代表や近隣住民の方々、町議会議員、行政担当課職員で構成され、専門家は不在なもの我が事としてざっくばらんに質疑応答している。入居者の状況や生活の様子、事故・ヒヤリハットなどの取り組みの課題を話し合っており、委員から誤薬防止の為にダブルチェックからトリプルチェックに変更することの助言を得たほか、コロナ禍での面会の仕方についても話し合い、その意見を反映して家族の面会を実施している。本年春には、全職員で考えた分かりやすく、覚えやすい運営理念に見直し、それに沿うようこと行動を始めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年12月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度から運営理念と目標を職員全員で考え掲げている。 スタッフルームや介護記録ファイルの最初に綴るなど、目に付きやすい場所に掲示し意識の向上につなげている。	開設以来14年間掲げてきた運営理念・運営目標を見直すため、全職員で考え管理者2名と主任2名で分かりやすく・覚えやすいものにまとめ、理念を「支え合う 優しさ笑顔あふれる 幸せな人生を」と改めた。理念・目標は、スタッフルームに掲示し、介護記録ファイルの最初のページにも綴られている。	新しく作り上げた理念・目標が、介護の場でどのように実践されているかについて、不断に振り返る機会を設けることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により敷地内の草刈りや資源ごみ回収のみとなっている。 コロナが終息した際には、近隣の幼稚園や学校との交流が持てるよう準備して行きたい。	コロナ禍で外部との交流は少ないが、近所の方からは介護で使用する古新聞をいただき、また、事業所として障がい者施設のリサイクル活動に協力している。コロナ禍が収束した折には、幼稚園や学校との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は学生の職場体験や近隣住民の避難訓練参加もして頂いていたが、コロナ禍により行っていない。 今年度から広報誌を発行しているので、今後は地域にも配布して行きたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員などの参加は難しかったが、今年度も定期的に開催できている。 入居者の状況や事故報告、医療連携状況なども報告し意見や指導を頂いている。 議事録を回覧し活かしている。	運営推進会議を2か月に1回、デイホールで7名の運営推進委員が出席して対面開催している。会議では施設運営のほか、農業や害獣の話題にも及んでいる。誤薬防止対策のダブルチェックからトリプルチェックへの見直し、玄関先で距離を開けての面会など、委員意見を参考に実践に取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は感染対策についての相談やコロナワクチンの接種実施、段取りなどでも協力頂き、更に密に連絡を取り合っている。	コロナ禍の感染対策や要介護認定申請等で、町担当課へ直接行ったり、電話・メールでやり取りをしている。防災ラジオからは気象情報等を得ている。釜石・大槌地域の医療との連携に向けて、リモート会議で参加している。地域包括支援センターからは入居相談が寄せられており、迷惑行為を行なう高齢者についても、行政と連携して受け入れを検討中である。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開催し、職員全体で話し合い知識の向上と身体拘束のないケアに努めている。玄関の施錠も極力入居者の行動を抑制しないように、状況に応じて対応している。半年以上は施錠せず対応できている。	身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、フィジカル・スピーチ・ドラッグのロックについて毎回確認している。防犯上16時から職員2名体制となる翌日6時までは、玄関ドアを施錠している。本人から「歩きたい」との希望があり、家族へ転倒リスクを説明し、了承のもと敷地内を歩行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックなどの研修も行い、各自言葉使いには気を付けて支援している。職員同士でも声を掛け合いながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている方が2名入居されているが、制度について理解できていない職員が多かったため、今後研修を開催したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にも十分に説明を行い、今回の改正時にも可能な限り家族に来所頂き、説明し納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍での面会、外出、外泊など、意見や要望は家族の来所時やメールで聞き取るようにしている。推進会議や職員会議などで検討し対応している。	夜勤やお風呂の1対1の時間が、話しを聞く機会となっている。利用者からあったモップの使い方やトイレ使用後の掃除についての意見に、その都度対応している。面会や電話・メールで、家族からの要望等を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議の他随時意見や提案を聞き取り、検討し反映させている。	管理者は、月1回の全体会議・ユニット会議、朝夕の送り時に、職員から意見等を聴き取っている。午後入浴業務に円滑に入れるよう、休憩時間を15分早めるとか、看取り利用者居室への加湿器導入の提案が、職員から出されている。	

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や主任からも意見を聞き向上心を持って働ける職場づくりに努めている。 その一環として、昨年度からリフレッシュ休暇を設定し、今年度は職員全員が取得できた。 有給休暇も取得しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や外部研修への参加など、職員の経験や力量に合わせて進めている。 又、研修内容は報告書を回覧する事で知識を身に付けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などで情報交換や交流を持つよう努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入浴時や就寝介助時など、1対1で話せる時にコミュニケーションをとるよう心掛け、本人の要望や不安、思いを聞き取り信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者が家族の不安や困りごと、要望を聞き取っている。 その情報を職員間で共有、話し合いを行い安心して頂けるような支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者や居室担当職員などでアセスメントを行い、必要とされている支援ができるようカンファレンスを行いながら努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭きや洗濯物干し、調理など日常生活でできることを行って頂き、共に支え合い生活できるような関係作りを心掛けている。		

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の城山通信などで近況報告をし、病院受診も家族にも協力して頂いているが、コロナ禍で家族と接する機会(面会や外出)が激減し関係が築きにくい状態が続いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数名ではあるが、美容院との関係継続や、近隣をドライブしたり散歩する事で、馴染みの場所を思い出して頂けるよう支援している。	入居前に本人・家族から、入居後は世間話から、地域との関係性を聴き取っている。美容室の送迎で、2名の方が美容を利用し、親戚の方は、野菜や米を届けてくれている。施設内では、同じテーブルの方同士で新しい馴染みが生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を把握しホールの席を決めている。 家事手伝いやレク活動を通じて入居者同士が関わり合えるよう支援している。 寝たきりの方には訪室時の会話を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談があれば対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話などから聞き取り、ケアカンファレンス等を通じ個々の思いを共有し支援できるよう努めている。	10名の利用者が意志表示でき、お風呂やホールで寛いでいるときの会話から、希望や意向を聞き出している。食べに行きたいとの要望にはメニューに取り入れ、家に帰りたい希望には家族へ連絡し対応している。意思表示困難な方は表情から推測し、布団やエアコンで温度調整を行い、大きな声を発する場合には、便が近いと推測し、看護師による摘便を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報をもとに、本人や家族から聞き取りを行い把握に努めている。		

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日2回の申送りや介護記録から過ごし方や状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、問題点や今後のあり方について検討、共有している。本人や家族、職員以外にも、主治医や福祉用具の業者にも相談や意見を頂いている。	毎月カンファレンスで入居者全員の目標達成状況等を検討している。介護計画のモニタリングと見直しは6か月毎に行ない、本人・家族の意向の他に、主治医や福祉用具業者の意見も反映させている。介護度の更新や介護度の見直し時には、モニタリングに基づいた介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアの内容や気づきを記録し情報共有を行っている。 情報をもとにケアカンファレンスを行い実践後介護計画を見直しより良い支援が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に合わせて、職員間で共有、アドバイスし合い多面的に取り組めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自立支援事業を利用している方は支援員とも連絡を密に取り対応している。 以前のようにボランティアの受け入れなどは全く出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が施設主治医を希望され月2回の往診をして頂いているが、以前からのかかりつけ医を希望され継続されている方も居る。 症状に応じて他の病院とも連携を取りスムーズに受診出来るように対応している。	殆どの入居者は、入居前のかかりつけ医の紹介状をもって、近くの協力医療機関に引き継がれている。協力医は夜間を含む24時間対応をしており、事業所の看護師もオンコール体制をとっている。通院は、家族対応を基本として、家族に病状や状態を説明し、受診結果は、看護師又は当日勤務職員が報告を受けている。	

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは出勤時以外も24時間いつでも連絡や報告ができ、指示を受け対応できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とも入・退院時には、看・介護サマリーなどで情報を共有している。 各医療機関の医療相談員とも連絡を密に取り合い、退院後の対応についても情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にも本人と家族の意向を確認するようにしている。 終末期を迎えた際は家族に施設でできるケア、できないケア、処置等について十分説明し意向を再確認した上で、カンファレンスにて意向や方針、ケア内容など職員間で共有し支援に取り組んでいる。	入居時に看取り介護の説明をし、急変時の対応と最期を迎える場の希望も確認している。身体機能の低下に応じ、カンファレンスで情報を共有し、看取りの支援に必要な体制を作り、安らかに過ごせるように支援している。家族とはその都度話し合っており、看取りを希望する場合には、協力医と連携しながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より急変時の対応や注意事項など介護記録綴りに添付しているが、実践力としてはまだ不安を感じている職員が多い。 日々起こりうる事態に備えて対応出来るよう職員同士で話し合い、チームで協力して対応出来るよう努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練と風水害訓練、緊急電話連絡網訓練などの自主訓練も実施している。 入社間もない職員も早めに訓練に参加できるよう対応していきたい。	ハザードマップでは、土砂災害警戒区域となっている。日中・夜間・風水害・救急救命(AED)・連絡網伝達の訓練を、実施している。風水害訓練では、大槌学園までの自動車避難で8分を要している。3日分の食料の他、備蓄品として、発電機・懐中電灯・おむつ・毛布・紙コップを備えている。	

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように配慮し、否定的な言葉は使わないように努めている。 上から目線の言葉使いにならないようにクッション言葉を使うよう心掛けている。	職員は、全利用者の前職(看護師・教員・会社員・漁師・自営業など)を把握している。否定的な言葉は使わず、断りや頼む際にはクッション言葉を用いるよう心がけている。排泄の失敗時には、本人に聞こえる程度の小声で対応している。また、言葉や仕草、表情からも思いを汲み取り、本人と話しをしながら自分で決められるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情、言葉、行動に注視し、本人に聞き取りながら自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな予定は決まっているが、無理強いはせず個々のペースで希望に応じられるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや爪切りなどの介助や、訪問理・美容の手配なども行き清潔を保てるように支援している。髪型や服装なども変化があった際にはほめるなど気分良く過ごして頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や行事食、誕生日食(本人の食べたい物)などを提供している。 今年度は外でお茶会やキッチンカーを呼び楽しんで頂いた。日常的に食事の準備や片付けも手伝ってもらっている。	全介助の方は2名、その他は自力摂取できる。両ユニットで5名の方が後片付けのテーブル拭きや茶碗拭きの手伝いをしている。昼食と夕食はパート職員が調理し、買い出しは事務職員が行っている。7月にキッチンカーを招き、たい焼き・焼き鳥・かき氷・ジュースを楽しんでいる。季節に応じて、おせち調理・恵方巻・煮しめ・赤飯・ミズキ団子を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嫌いな物や禁食には代替えを提供したり、刻みやミキサー食にも対応し、個々に合わせて提供している。 水分も麦茶や緑茶、甜茶やスポーツドリンクなどを、形状(とろみ付けやゼリー)も身体状態に合わせて提供できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ以外にも、口腔用スポンジやウエットティッシュ、うがい不要の歯磨きジェルなど、福祉用具の業者にも相談しながら状態に合わせて清潔保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し声がけや誘導、介助を行っている。 下衣の上げ下げやふき取りなどできる部分は見守りや声がけにて行って頂き、自立にむけた支援をしている。	両ユニットでおむつ使用は2名、布パンツ4名、その他はリハビリパンツに尿取りパッド併用となっている。排泄チェック表により小声でトイレ誘導し、ズボンの上げ下げ以外は、ドアの外で職員は待機している。失禁のある方には、排泄誘導時間を3時間から2時間に変更し、夜間10回程起きる方には大き目のパッドを使用し、安眠できる時間を作っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操で便秘予防に努めている。 便秘の時は下剤や摘便処置など看護師主導で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務上、曜日と時間は決めているが、体調や気分による変更にも臨機応変に対応している。 入浴中だからこその1対1の会話を持つようにしている。	週2回、月曜日から土曜日の午後に入浴している。要望や体調などに応じ、入浴日等を柔軟に調整対応している。入浴時には、湯温の好みを聞き温度調節するなど、柔軟に対応している。寛いだ気分で入浴できるよう、1人でゆったり入浴している方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも傾眠が見られる時は、居室での臥床休息を促している。 寝具類も季節や好みに合った(重い布団など)清潔な物を使用して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬説明書を綴り、いつでも確認しやすいようにしている。 看護師より変更などの指示があった時には、様子観察を徹底し密に報告している。 誤薬も2重、3重に確認し予防に努めている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯もの干しやたたみ、食事の挨拶や片付け、レク活動のリーダーシップなど、性格や身体機能に応じて役割を持って頂いている。 TV鑑賞も歌番組や時代劇物など好みに合わせて視聴できるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レク活動として花見などドライブに出かけたが、コロナ禍で下車する事はほぼ出来ず、外出は施設周辺の散歩のみとなっている。 散歩の際は近隣の方とのコミュニケーションを大切にしよう努めている。	天気の良い日には、ホーム周辺を職員と散歩し、夏場には園庭で日光浴を行っている。花見は、コロナ禍のため下車しないでドライブしながら見学している。入居者の中には、美容院に出かけている方もいる。コロナ禍が終息した折には、外食したりドライブに出かけたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を本人管理している方は数名いるが、自動販売機で飲み物を購入する程度となっている。 基本的には金銭は事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している方もあり、自由に連絡を取り合っている。 家族から了解を得ている方には、希望時電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓やアルコール消毒など、清潔保持を心掛けている。 観葉植物や花を飾り気持ちよく過ごしてもらえよう努めている。 レク活動での作品を飾り季節も感じて頂けるよう工夫している。	ホールは一丁目と二丁目を間仕切る壁を利用して、時計や切り絵、季節の装飾品(訪問時はクリスマスツリー)が飾られている。エアコン、加湿器があり、温度調整されている。中庭から日差しが入り、施設特有の臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人一人好きな場所で思い思いに過ごされている。 自席で気の合った方と談笑されたり、居室で臥床休息されたり、TVを見たりされている方も居る。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所時に使い慣れたものや家族写真なども持ち 込んで頂いている。 更に快適に過ごせるよう、整理整頓や清掃を心 掛けている。	居室は、エアコンや加湿器で空調管理され、ク ローゼット、洗面台が備え付けられている。入居 者は、レンタルベッドやテレビのほか、本人が使 い慣れた物や愛着がある棚なども持ち込んでい る。クロスワードが好きで机を用意してクロス ワードを楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	トイレや各場所に看板をつけ分かりやすいよう に工夫している。 歩く場所にも物を置かないように配慮している。		